



令和7年8月7日

長崎県福祉保健部地域保健推進課
担当：松本、佐々野
電話：095-895-2466 内線：4658

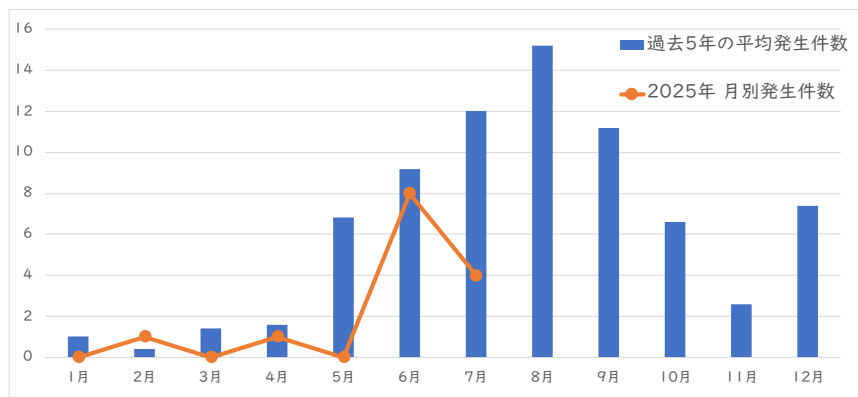
腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

今年県内では、8月3日までに腸管出血性大腸菌感染症が14件発生しています。

腸管出血性大腸菌は、汚染された食品や不適切な汚物処理などにより感染が広がることがあるので、感染予防のためには、オムツ交換時や排便後・食事前の石けんによる手洗いの徹底等が重要となります。本疾患は、例年8月をピークに発生数が増える傾向にあるので注意しましょう。

早期受診が重症化や二次感染を防ぐことにつながるため、自己判断で下痢止め薬を服用したりせず、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

1. 腸管出血性大腸菌感染症の過去5年間の県内発生状況（2025年8月3日時点）



診断年	2020	2021	2022	2023	2024	2025※
発生数	118	83	63	62	51	14
うち患者	34	56	51	41	40	11
うち無症状病原体保有者	84	27	12	21	11	3

※2025年は第31週（7/28-8/3）時点の累積報告数

2. 感染予防策等

- 調理や食事の前、トイレやオムツ交換の後などには、手洗いを流水と石けんにより丁寧に行い、清潔なタオルやペーパータオルで手を拭いて下さい。
- 汚染部分や人の手が触れる部分（ドアノブ等）を消毒用アルコール等で丁寧に消毒しましょう。
- 肉、魚、野菜などの生鮮食品は新鮮なものを購入し、賞味期限を守りましょう。また調理は十分に加熱して、すぐに食べるようにし、保存する場合は冷蔵庫に入れるようにしましょう。特に重症化しやすい乳幼児や高齢者については、生肉又は加熱不十分な食肉を食べさせないように注意しましょう。
- 感染した場合は、家庭内で広がるのを防ぐため入浴を控えるか、シャワー浴または最後に入浴するようにしましょう。

腸管出血性大腸菌感染症

(Enterohemorrhagic Escherichia Coli infection)

(特徴)

大腸菌は、動物や人の腸内にも存在し、そのほとんどは無害です。しかし、^{オー}O157をはじめ、そのいくつかは、ベロ毒素という強い毒素を産生し、腹痛や下痢、進行すると出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群、脳症など重篤な合併症を引き起こすことがあります。特に抵抗力の弱い高齢者や小児などでは注意が必要です。潜伏期間は2日から7日が多く、長いものでは12日におよぶこともあります。

(感染経路)

飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取するか患者の糞便で汚染されたものを口にすることが原因となります。このため人から人へと二次感染を起こすことがあり、食中毒としてだけでなく感染症として発症することがあります。

(症状)

主に水様性下痢と腹痛で発症し、数日内には血便がみられることもあり、多量・頻回に排出する場合も多く、嘔吐や38℃台の発熱を伴うことがあります。

微量の菌でも感染するため、二次感染が起こりやすいとされています。

ベロ毒素の作用により溶血性貧血、急性腎不全を来し、溶血性尿毒症症候群(Hemolytic Uremic Syndrome, HUS)を引き起こすことがあり、小児や高齢者では痙攣、昏睡、脳症などによって致命症となることがあります。

この情報提供は、腸管出血性大腸菌感染症に関する正しい知識の普及と注意喚起を目的とした広報活動です。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条及び第4条において求められているように、患者等の人権尊重には御配慮と御理解をいただきますようお願いいたします。

(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律)【抜粋】

第三条 国及び地方公共団体は、教育活動、広報活動等を通じた感染症に関する正しい知識の普及、感染症に関する情報の収集、整理、分析及び提供、感染症に関する研究の推進、病原体等の検査能力の向上並びに感染症の予防に係る人材の養成及び資質の向上を図るとともに、社会福祉等の関連施策との有機的な連携に配慮しつつ感染症の患者が良質かつ適切な医療を受けられるように必要な措置を講ずるよう努めなければならない。この場合において、国及び地方公共団体は、感染症の患者等の人権を尊重しなければならない。

第四条 国民は、感染症に関する正しい知識を持ち、その予防に必要な注意を払うよう努めるとともに、感染症の患者等の人権が損なわれることがないようにしなければならない。